

第1章 子ども理解とは

- ① 子ども理解からの出発?
- ② これまでのやり方への反省から「一人一人の特性に応じた教育」へ

第2章 子ども像・子ども観と子ども理解

- ① 子ども像とは
- ② 子ども像と子ども観
- ③ レッジョ・エミリアの子ども観
- ④ 子ども観・子ども像と保育実践

第3章 乳幼児期にふさわしい生活とは

- ① 「幼児期の教育における見方・考え方」
- ② 二重の現実
- ③ 生活の中で文化を伝える

第4章 子ども理解における発達の観点

- ① 子どもを理解すること
- ② 発達に関わるさまざまな視点

第5章 子ども理解における保育者の姿勢

- ① 人的環境としての保育者の姿勢
- ② 保育の中での保育者の姿勢
- ③ 保育者自身の感情

第6章 乳児期（0・1・2歳児）と子ども理解

- ① 乳児期からの保育と乳児理解
- ② 生活環境は相互に関わり乳児の育ちに影響

③ 心地よい生活の中での乳児理解とは

④ 【ワーク】一人ひとりの育つ力を通して理解する乳児理解

第7章 個と集団の関係の理解と援助

① 学級集団をどう見るか

② 協同性（「自分たち」という感覚）を身につけていく2つのルート

③ まとめ

第8章 保育の中の子ども理解

① さまざまな子ども理解の観点

② 相互の関わりから築かれる信頼関係

第9章 プロジェクト活動と子ども理解

① プロジェクト活動とは

② 日本における取り組み

③ 保育者たちのプロジェクト活動

④ プロジェクト活動と保育計画

第10章 子ども理解と評価

① 「幼稚園教育要領」における評価

② 『保育所保育指針』における評価

第11章 保育における観察と記録の実際

① 遊びの楽しい様子から保育実践の記録をスタート

② 記録を取る意義と方法

③ 子ども理解のための記録

④ 保育の記録の意義と生かし方

第12章 保育を深めるための組織づくり

- ① 保育者間の対話とその意義
- ② ファシリテーションを用いた「保育の学び」

第13章 保護者理解と援助

- ① 子育て支援の必要性
- ② 保護者と一緒に子どもを育てる

第14章 特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助

- ① 障害のある子どもと共に育つことの大切さ
- ② 子どもの気になる行動の捉え方
- ③ 障害特性と支援の考え方
- ④ 事例を通して子どもの理解とその対応を学ぶ
- ⑤ 外国籍の子どもの理解と保育

第15章 発達の連続性と就学の支援

- ① 発達の連続性と学びの連続性
- ② 家庭における学習の基礎となる学びに向かう力
- ③ 子どもの捉え方と教師の役割 —【共に創る保育の創造】— 上原博光